

## 「アキ・ラーさん講演会」報告

## NEW CROWN BOOK 2のLET'S READ 2

に登場するアキラさんが、昨年秋に来日し、全国5か所で講演をされました。講演はおもに英語で行われましたが、講演後には参加者と日本語でやりとりをするアキラさんの姿も見られました。

## ●アキ・ラー (通称アキラ) さん

アキラさんは幼少の頃に両親を軍に殺され、その後は兵士として育てられました。初めて銃を持った時の話、友人を亡くした話、捕虜になった話、叔父に敵として遭遇した話、など、その当時のエピソードを、たくさんお話ししてくださいました。戦場でのエピソードは過酷なものばかりでしたが、中には笑いを誘うエピソードもいくつかあり、アキラさんの優しさを垣間見ることができました。



実際にお会いしてみても、アキラさんとはとても気さくで優しい方という印象でした。(NEW CROWNとのツーショットも快く引き受けてくださいました。) そんなアキラさんの人柄が、いろいろな人を引き寄せ、地雷のない世界を目指す大きな力となっているのかもしれない。

ない世界を目指す大きな力となっているのかもしれない。

## ●タアン・ラー (通称アラン) さん

アキラさんの博物館で育った、アランさんもお話をされました。アランさんは生後4ヶ月の時、彼を抱えて逃げていた母親に爆弾があたり、右腕を失いました。家の畑を手伝い、学校に通えずにいたところ、アキラさんに出会ったそうです。そんな彼の現在の夢は、戦争被害で体が不自由になった人たちが働きやすい会社を作ることだと言います。勉強中だという日本語で、自分の思いを伝えるその姿にとっても感動しました。



アランさん(写真左)とアキラさん  
アキラさんは、2010年にCNNの世界の十大ヒーローのうちのひとりに選ばれました。

## ●地雷がなくなるまで

講演の途中、地雷処理の実際の映像が流れました。防具を身につけ、地雷原探知機を使いながら、1メートルずつ慎重に作業を進めていきます。一人で一日本およそ25平方メートル。映像で流れた現場は、すべての地雷を撤去するまでに1ヶ月かかったそうです。

地道で、一步間違えれば自分の身にも危険が及ぶ作業。緊迫した空気は、画面越しにも伝わってきました。爆破処理の場面では、「パーン」という乾いた爆発音とともに落ち葉が一気に舞い上がり、地雷の威力と恐ろしさを実感しました。

殺すことではなく、怪我をさせることが目的の「悪魔の兵器」。一度地中に埋められると半永久的に作動します。戦争が終わっても地雷がある限り、人々はその存在に怯えながら暮らさなくてはなりません。すべてはカンボジアの人々が安心して暮らせるためと、アキラさんは今でも地雷を掘り続けています。

(編集部)

もっと詳しく知りたい方はこちら  
NEW CROWN BOOK 2 LET'S READ 2  
『Landmines and Aki Ra』原作本

『アキラの地雷博物館とこどもたち』  
アキ・ラー [編著]

地雷博物館をつくり、地雷で手足をうばわれたこどもたちを育てる、元少年兵アキラさんによる手記。

